

修士論文（要旨）
2021年7月

フラワーアレンジメントがデイサービス利用高齢者の
精神的健康状態に及ぼす効果

指導 渡辺 修一郎 教授

老年学研究科
老年学専攻
219J6901
佐々木 華香

Master's Thesis(Abstract)
July 2021

Effect of flower arrangement on mental health of elderly people using day service

Hanaka Sasaki
219J6901
Master's Program in Gerontology Studies
Graduate School of Gerontology Studies
J. F. Oberlin University
Thesis Supervisor: Shuichiro Watanabe

目次

I 諸言	1
I-1. 我が国の高齢化と高齢者の精神的健康状態	1
I-2. 高齢者の精神的健康状態に対する取り組みの現状	1
I-3. フラワーアレンジメントの概要	2
II 目的	3
III 対象と方法	4
III-1. 対象	4
III-2. 方法	4
1. フラワーアレンジメントレッスンの概要と手順	4
2. 調査項目	5
3. 統計解析	6
4. 倫理的配慮	6
IV 結果	7
IV-1. 対象者の属性	7
IV-2 初回調査時点の精神的健康状態	8
IV-3 介入の有無別にみた WHO-5J 得点の変化と介入後アンケート結果	8
IV-4 当日介入後 WHO-5J 得点の変化	8
V 考察	9
引用文献	I

I 諸言

1. 我が国の高齢化と高齢者の精神的健康状態

2020年9月15日現在、総務省の発表によると我が国の高齢化率は28.7%となった。高齢化を止めることが難しいと考えられる現在、今後予測される社会的負担を抑制するための健康施策として、長寿を目指すだけでなく健康の維持や向上を目的とした予防を重要視するようになっている。高齢期における精神的健康状態の悪化は、体力の低下や生活機能の低下につながるだけでなく、心筋梗塞への罹患・自殺・医療機関受診回数の増加・医療費の増加といった身体的・社会的にも負担となることは明らかである。

2. 高齢者の精神的健康状態に対する取り組みの現状

高齢者の精神的健康状態に対する取り組みは予防の段階に応じて3つに大別できる。また高齢期の精神的問題に対して有効と考えられるケアや接し方の共通点は、初期サインを見逃さず不安やストレスを減らす支援をすることであり、医療や福祉関係者の支援も必須と考えられる。また、認知症に対しては薬物療法の他、非薬物療法として、心理療法、回想法、動物療法、芸術療法など多種多様な取り組みが行われている。

3. フラワーアレンジメントの概要

フラワーアレンジメントとは植物を使用したデザイン分野の一つであり、「フラワーデザイン」や「フローラルデザイン」、「フローラルアート」等とも称する。

本研究では個人差はあるが日常生活に制限のある可能性の高い高齢者に対して、フラワーアレンジメント作成中は可能な限り自由に考え・行動し・発言するなど高齢者それぞれの個性を引き出すことも研究の一助となると考え、比較的自由度の高いオランダで一般的に実施しているフラワーアレンジメントレッスンの手法や技術の一部を取り入れた。

II 目的

先行研究を検索した結果、国外ではYavneらが線維筋痛症患者の疼痛や精神症状にフラワーアレンジメントの効果を検討したもの、国内では望月らが左半側空間無視症状のある患者のケアにフラワーアレンジメントを活用した事例及び5種の研究がみられるだけであり、生活機能が低下した高齢者の精神的健康状態とフラワーアレンジメントの関連について検討した先行研究は見当たらなかった。そこで本研究ではフラワーアレンジメントが生活機能の低下した高齢者の精神的健康状態に及ぼす効果を明らかにすることを目的とした。

III 対象と方法

1. 対象

東京都のAデイサービスに通所する高齢者のうち、調査に協力の得られた33名を対象とした。

2. 方法

対象を通所する曜日により、介入群18名、対照群15名に分け、介入群へは2か月間フラワーアレンジメントレッスンを行い、対照群にはその間、通常の日サービスを継続してもらった。2群に対し介入期間の前後にWHO-5精神的健康状態表(WHO-5J)を含むアンケート調査を実施した。

(1)フラワーアレンジメントレッスンの概要と手順

フラワーアレンジメントレッスンは対象者が自ら手順やデザインを考え、自由に植物を

活ける、オランダのレッスン手法の一部を導入した。

(2)調査項目

WHO-5J 得点を精神的健康状態の指標とした。先行研究により精神的健康状態との関連が報告されている年齢、性別、世帯形態、治療中の病気及び、この一年間の大きなライフイベントの有無等について同時に調査した。

(3)統計解析

介入群と対照群のカテゴリ変数の比較はカイ 2 乗検定を用いて行った。介入群及び対照群の介入前後の WHO-5J 得点の平均値の比較は対応のある T 検定を用いて行った。

(4)倫理的配慮

本研究は桜美林大学の研究活動倫理委員会の審査・承認(No. 19072)を受けた後、対象に十分な説明を行い同意を得たうえで実施した。

IV 結果

1. 対象者の属性

性別は女性が 75.8%と多くを占め、独居の割合は 21.2%であった。対象の多く(87.9%)が要介護認定を受けていた。介入群に対し対照群の方が治療中の病気がある者の割合が高かった(対照群 66.7% v.s. 介入群 33.3%)が、その差は有意ではなかった。その他の性別、世帯形態、要介護度についても、介入群と対照群で分布に有意差はなかった。

2. 初回調査時点の精神的健康状態

初回調査時点の WHO-5J 得点は、介入群が 16.0 ± 6.0 (平均±標準偏差) 点、対照群が 15.5 ± 3.6 点で、両群に有意差はみられなかった。

3. 介入の有無別にみた WHO-5J 得点の変化と介入後アンケート結果

介入群の WHO-5J の平均得点は 16.9 点から 19.8 点に有意に上昇した。一方、対照群の変化は 15.3 点から 16.0 点であり有意ではなかった。介入後アンケートの 1 項目である「植物が身近にあると気分がよくなりますか」という質問に対しては無回答者 1 名を除き介入群と対照群の全員が「はい」と回答した等、植物を介した研究調査及び効果の意義を確認することが出来た。

4. 介入当日のレッスン前後の WHO-5J 得点の変化

介入群には 2 か月間の WHO-5J の調査に加え、第三回目のレッスン前後において、WHO-5J 得点の変化についても調査を実施した。当日のレッスン前後の WHO-5J 得点には有意な変化はみられなかった。

V 考察

本研究の結果、フラワーアレンジメントが生活機能の低下した高齢者の精神的健康状態を改善させることが実証できた。その背景を検討するため、研究調査期間の最終日に介入群に参加した高齢者及びフラワーアレンジメントレッスンの補助をお願いしたデイサービス職員に対するインタビューを実施し、様々な感想と意見を聞くことができた。介入群の WHO-5J 得点は介入期間を通して増加したにも関わらず、レッスン当日前後では有意な変化をみることが出来なかった。このことから、フラワーアレンジメントの効果は超短期的に生じるものではなく、長期的に現れるものであると考えられた。フラワーアレンジメン

トが長期的に精神的健康状態を改善させるメカニズムは不明であるが、フラワーアレンジメントがもたらす、手続き記憶の改善や、次のレッスンへの期待や準備などが関連しているのかもしれない。

COVID-19 感染拡大の影響から、当初予定していた調査対象者が減ってしまったため、今後の研究には、より多くの精神的健康状態に問題がある高齢者に対してフラワーアレンジメントレッスンを行い、フラワーアレンジメントの、どの要素が有益であるのかを検討課題としたい。

引用文献

- Aad van Uffelen, 『Dutch style Flower Arranging Inspiring Floral Creations』, Terra, 1998
- Mitchell L. Hewson 著 菅由美子 監訳, 『心へのアプローチ園芸療法実践入門』, エンパワメント研究所, 2000
- Aad van Uffelen, 『Flower world』, Terra, 2000
- グロッセ世津子, 『園芸療法増補版—植物とのふれあいで心身をいやす』, 日本地域社会研究所, 2002
- 柴田博, 『老年学テキスト』, 建帛社, 2007
- Vincent A Lalli, Daniel J Tennessen, Kristi Lockhart 著 奥田栄一郎 訳, 『園芸福祉入門』, 東京教学社, 2009
- Hiroko Mochizuki-Kawai, Yuriko Yamakawa, Satoshi Mochizuki, Shoko Anzai, Masanobu Arai, 「Structured floral arrangement programme for improving visuospatial working memory in schizophrenia」 Neuropsychol Rehabil. 2010 Aug
- 飯森眞喜雄, 『こころの科学セレクション芸術療法』, 日本評論社, 2011
- 後藤猛, 『認知症の人が安楽死する国—オランダの医療・介護・福祉に学ぶ』, 雲母書房, 2012
- NPO 法人生活・福祉環境づくり 21・日本応用老年学会, 『高齢社会の道案内ジェロントロジー入門』, 社会保険出版社, 2013
- 高齢者アクティビティ開発センター, 『高齢者の楽楽アクティビティケアの進め方』, 黎明書房, 2013
- 岩佐一・権藤恭之・増井幸恵・稲垣宏樹・河合千恵子・大塚理加・小川まどか・高山緑・蘭牟田洋美・鈴木隆雄 (2007) 「日本語版「WHO-5 精神的健康状態表」の信頼性ならびに妥当性—地域高齢者を対象とした検討—」 『厚生学』, 第 54 巻 8 号
- 野田勝二・小宮山政敏・大釜敏正, (2008) 「五感を刺激する園芸療法」 『J. Japan Association on Odor Environment』, 第 39 巻 4 号, 239~248
- 望月寛子・小谷泉・牧山康志・山川百合子, (2008) 「フラワーアレンジメント作業を取り入れた認知リハビリテーションによって左半側空間無視症状を長期的に改善させた 1 例」 『高次脳機能研究』, 第 33 巻 2 号, 102~109
- 森山千賀子・土井晶子, (2009) 「日本の高齢者施設における余暇活動の現状と課題—QOL の向上に効果的な余暇活動とは—」 『白梅学園大学・短期大学紀要』, 第 45 巻, 49~67
- 白井はる奈・白井壯一・広崎真弓・大平哲也・望月聡・武山直義・松林潤・山根寛 (2012) 「地域在住の中高齢成人に対するフラワーアレンジメントの介入効果—心理面の変化と唾液中コルチゾール値に着目して—」 『佛教大学保健医療技術学部論集』, 第 6 号
- 稲垣宏樹・伊藤佳恵・佐久間尚子・杉山美香・岡村毅・粟田主一, (2013) 「WHO-5 精神的健康状態表簡易版 (S-WHO-5-J) の作成およびその信頼性・妥当性の検討」 『日本公益誌』, 第 60 巻 5 号
- 岩佐一・稲垣宏樹・吉田祐子・増井幸恵・鈴木隆雄・吉田英世・粟田主一, (2014) 「地域在住高齢者における日本語版「WHO-5 精神的健康状態表」(WHO-5-J) の標準化」 『老年社会科学』, 第 36 巻 3 号, 330~339
- 渡辺修一郎, (2015) 「予防理学療法における老年学的アプローチ」, 『理学療法学』, 第 42 巻 代 8 号, 805~806
- 一般社団法人フラワーライフスタイリスト協会, (2015) 「産地活性化総合対策事業のうち国産花きイノベーション推進事業 (花きの効用検証・普及事業)」
- 小浦誠吾・池田明子・佐佐木景子・押川武志 (2016) 「フィットセラピーの学際的可能性」 『人植関係学誌』, 第 16 巻 1 号, 63~66
- 小園麻里菜・権藤恭之・小川まどか・石岡良子・増井幸恵・中川威・田淵恵・立平起子・池邊一三・神出計・新井康道・石崎達郎・高橋龍太郎, (2016) 「余暇時間と認知機能との関連」 『老年社会科学』, 第 38 巻 1 号, 32~44
- 豊田正博・杉原式穂・金子みどり・天野玉記, (2016) 「平易なフラワーアレンジを用いた園芸療法が認知症高齢者と支援者に与える生理的・心理的効果」, 『日本認知症予防学会誌』, 第 5

卷 1 号

Yeon Hee Kim, Suk Young Yun, and Byung Jin Choi, 「The Effects of the Floral Arrangement in a Designated Space on the Visual Perception Motor Coordination Ability and Hand Function of the Elderly with Dementia」 J. People Plants Environ. Vol. 21 No. 3: 213-221, June 2018

三宅菜月・原田真耶・西田征治・木下文香・坂本千晶, (2019) 「認知症治療病棟における作業に基づく環境の改善が認知症者の行動と状態に与える影響」, 『人間と科学 県立広島大学保健福祉学部誌』, 第 19 卷 1 号, 65~372

Yarden Yavne, Anas Kabaha, Tsufit Rosen, Irit Avisar, Hedi Orbach, Daniela Amital, Howard Amital 「The Powers of Flowers: Evaluating the Impact of Floral Therapy on Pain and Psychiatric Symptoms in Fibromyalgia」, IMAJ・VOL21・JULY 2019

内閣府, (2020) 「高齢化の現状」, 『令和 2 年版高齢社会白書 (全体版) (PDF 版) 』

総務省, (2020) 「統計トピックス No.126 統計からみた我が国の高齢者」, 『令和 2 年 9 月 20 日 報道資料』